

平成30年度「知事と市町長の1対1対談」（桑名市）概要

- 1 対談市町 桑名市（伊藤 徳宇^{いとう なるたか} 桑名市長）
- 2 対談日時 平成30年7月9日（月）15時00分から16時00分
- 3 対談場所 桑名市総合医療センター
- 4 対談項目
 - 対談項目1 医療的ケア児のための看護師配置について
 - 対談項目2 大規模災害に対する広域避難の実現について
 - 対談項目3 働き方改革 ～自動化技術等の積極的な活用について～

5 対談概要

（1） 医療的ケア児のための看護師配置について

（市長）

桑名市総合医療センターができ、高度な医療機器が入り、多くの医師に集まっていたいただき、ここを拠点に、いろいろな連携をして、しっかりとした医療体制を構築したいと思っています。これまで、周産期、産科の部分で弱かった部分がありましたが、NICU（新生児集中治療室）も整備させていただいて、医師もモチベーションを高くもっていただいています。リスクの高い出産も出来るようになりましたが、今まで生まれる事が出来なかったような方々も、この病院では命を授かることが出来ることになると思いますし、またそれに伴ういろんな課題があるとも感じています。

具体的な話として、医療的ケアが必要な子どもというのは、それぞれ多様なので、何が必要かもバラバラです。完全に制度の狭間にいる子もいて、全体像が把握できていないという難しさもあります。その中で我々は、医療的ケアの必要な子どもたちに対しても、この病院をつくった責務として支援をしっかりしていきたいという思いを持っており、県としてどのように考えているのかを、お聞かせいただきたいと思っています。

まず、お母さんたちがすごく大変です。24時間365日、その子に付きっきりで、ゆっくり眠れないお母さんが沢山いるなと感じます。この病院を整備する時にも、そういうお母さんたちが少しでも休まるように、レスパイト、一時的預かりをしてもらえないかという声も届きました。今後改築してフル稼働した時にはレスパイトができ、桑名のそうしたお母さんたちの助けになるのではないかと思います。

次に、保育所、幼稚園、学校で大事なのが看護師です。桑名市では、幼稚園

に2人、小学校に2人たん吸引やインスリン注射などが必要な子どもたちがいます。この看護師配置が難しく、保育所と小学校は国の支援メニューもあるのですが、幼稚園に無いということで、市が単独で付けさせてもらっています。また、県の支援は、色んな応援をいただいていますけれども、国、県、市のそれぞれの補助の割合が決まっているものと比べると、これ自体無かったりする部分もあります。その辺りもご検討いただければと思います。

制度の狭間にいる子どもたちにも、しっかり光を当てていただいて取り組んでいただけるよう、国や関係機関へ話していただきたいと思っています。桑名のこの4人の子どもたちは、遠い所にかかりつけ医を持っている子が多いです。これからは桑名で生まれた子たちは、ここ（医療センター）が正にかかりつけ医となって、ここでずっと桑名で暮らしていただくことになります。そこはしっかり市も責任を持ってやっていきたいと思っていますので、是非とも応援をお願いしたいと思います。

（知事）

医療的ケアが必要な子どもたちの件については、三重県では、県内の全数把握を行っていきまして、平成28年度時点で、214人の医療的ケア児がいて、うち40人が人工呼吸器を使用しています。また、低体重児は1,214人いるということも分かりました。市長がおっしゃっていただいたような、NICUとかを出た後のケアが必要な子どもたちについて、潜在的なケアニーズが顕在化しているということです。

桑名市では、小児在宅、医療的ケアが必要な子たちの在宅医療やケアをどうするのか、国の委託事業を使って、モデル地区でずっと取り組んでいただきました。そこで関係者の研修会、あるいは職種連携を進めていただいて、「e ケア ネット そういん」というネットワークを作っていただいています。この数年間で地についたネットワークを作っていただいているということなので、このことを提起していただいたことは、大変ありがたいと思っています。看護師の病院における配置、それから教育現場における配置についてもしっかりと、桑名市などと連携して進めていきたいと思っています。

看護師の教育現場への配置について、県ではナースセンターを設置していて、看護師の求職と求人とのマッチングを行わせてもらっています。この中で、教育現場への看護師の配置についても、しっかり進むようにしたいと思います。

それから、看護師も含めて、学校現場でどういう風に医療的ケアを行うかと

ということで、県ではまず、特別支援学校での医療的ケアにかかるガイドラインを平成30年度内に作りたいと思っています。これを各市町にお渡しさせていただいて、各市町で医療的ケアの各学校担当者や関係する人たちが活用いただけるようなことをやっていきたいと思っています。また、研修会なども進めて行きたいと思っておりますし、財源確保の部分においても、国で一定の制度などがありますので、その拡充や新たな制度の創設、或いは継続や上限の撤廃ということもしっかりと、桑名市と一緒に提言していきたいと思っております。

(2) 大規模災害に対する広域避難の実現について

(市長)

大規模災害が起こった時の広域避難について、知事からも愛知、岐阜の知事と名古屋市長との会議の中で取り上げていただき、進めていただいております。また、国土交通省を中心に、この広域避難を具体的にどうするかということが議論されていますが、その拠点として話が出てくるのは2つの場所であり、その一つは、この愛知、岐阜、三重の正にこのエリアです。広域避難プロジェクトと言うものを作っていて、その中でこの8市町村で広域のハザードマップを作ったらどうか、広域でやったらどうか、と具体的に提言がありました。今の法律上では首長防災になっていますので、私が市外の人を桑名にという指示は制度上難しいと思っていますのですが、そういうところの法整備も含めて、しっかり考えていただきたいと思っています。県として具体的な動きがあったら教えていただきたいと思っております。

今回の災害でも思ったのですが、特別警報を出してもなかなか避難しないという、伝え方についての大きな課題が出て来ています。仮に名古屋市が被災して、多くの方が垂直避難をした時の救助というのはすごく大変になると思っております。三重県は、どちらかと言えば、地形上、受入側になると思っています。受ける方がすごく大変なのですが、ここを整理するのが非常に難しい。将来的には、法体系を変える議論もあるのかなと思っていますが、今すぐやれることは連携を深めて、実際何が起こるか洗い出しをしていくしか無いのかなと思っております。広域避難については誰も指示が出来ない状況なので、是非ともそのあたりを国に対して、このような課題もあるよと伝えていただきたいと思っております。

(知事)

平成25年の伊藤市長との1対1対談を踏まえて私の方から提起をし、3県1市会議「東海三県一市・木曾三川下流域等における防災対策連絡会議」を立ち上げ、平成26年度に「東海三県一市・県境を越える広域避難調整方針」を

作って、平成28年度には実際に避難訓練なども実施してきたという状況です。桑員地域の防災対策会議を開催させていただいていますが、県外への避難をどうしていくのかということも、そこで議論させていただければと思っています。広域避難となった時に、受ける方も出る方もすごく大変です。しっかり精緻に、また要領を充実させて具体性のある計画を作ったり、或いは図上訓練で検証していくというような手順を踏んで、桑名市や皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っています。

桑名の沿岸部から山の方に避難していくというのは桑名市で考えてもらっていて、県内の桑員地域は桑名、木曾岬から、いなべ、東員に避難しますということも考えてあります。後は県外へどう避難してもらうか、そういうこともよく議論していきたいです。平成30年度、桑名市から県に1名職員を派遣していただいております、海拔ゼロメートル地帯における広域避難を担当してもらっていますので、是非よろしくお願ひしたいと思っています。

(3) 働き方改革 ～自動化技術等の積極的な活用について～

(市長)

働き方改革といいますか、自動化技術などが今、いろいろと話題になっていますので、このことを積極的に取り組んでいきたいなと思っています。内部の事務を如何に効率化するか、ここの部分を自動化して、必要なところに人をはめていくことを考えていかなければならないと思っています。全国的にも、いろいろな取組事例が出てきています。今、RPA という様々な自動化プログラムであったり、いろいろな読み取りのOCR などが出てきています。OCR は今、市で具体的に取組もうと思っています。単なるOCRではなくAIの思考回路を回すことで非常にクオリティが高くなります。こういうものを頑張って、やっていこうと思いますので、是非、県も一緒になって頑張っていきませんか。

RPAの部分はまだ難しく実証段階かなと思いますが、OCRは確実に使えると思っています。市では昨年、働き方改革で時間外の削減に取り組んできたのですが、削減した分を、職員皆に還元しようということで、その削減から生まれた金額のいくらかを使って、こういうものをどんどん導入して行って、とにかく市では戸籍、税務、確定申告、年金保険の部分などで入力作業が無くなれば一気に働き方が変わってくると思っているので、県の方でも是非ご検討をと思います。

(知事)

RPA はつくば市が活用していて、市民税課や市民窓口課で8割くらい時間が削減されたり、都道府県では京都府が平成29年、4件の業務で試行してみて、これも78%~91%の時間削減に繋がったり、あとは事務ミスが減るとか、そういうような効果があったようなので、三重県としては今、行政事務の中のICT活用ということで検討させています。この取組の一つとして、RPAのこともなどを研究するように既に指示を出しており、とりわけ、働き方改革の観点から取り組めればと思います。

先ほどの税のところなど、つくば市も実施していますし、県も県税事務所などがありますので、そういう一定の単純作業のようなものの中で効率化できるところは進めたいと思います。また、削減した時間外手当にかかる経費は、こういうことに充てていって、よりまた時間削減を進める、時間外手当の削減を進めることが出来ると思いますので、しっかり積極的に展開したいと思います。

※参考

RPA (Robotic Process Automation)

人間が行うキーボードやマウス等の端末作操作を自動化する技術。

OCR (Optical Character Reader)

光学式文字読取装置

(総務省資料より)